

吉岡ロゴテック

土産で日商会頭賞

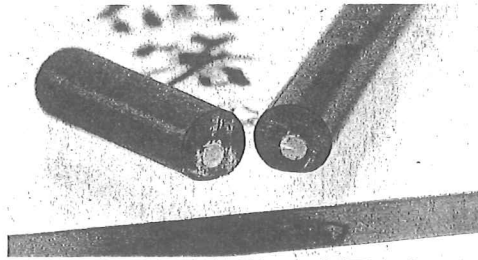
常に上向く「縁起箸」

眼鏡にブランド名や品番を刻印する特殊印刷加工の「吉岡ロゴテック」（福井市、吉岡敦之社長）が企画、開発した縁起箸が、本年度の全国推奨観光土産品審査会「工芸の部」で、日本商工会議所会頭賞を射止めた。東北発祥の七転び八起きの縁起物「起き上がり小法師」のように、転がっても絵柄が常に上を向く「前向きさ」が特徴だ。（北原愛）

名付けて「起き上がり個箸」協力し、眼鏡枠製造技術（鯖江市）が漆を塗り、伝箸。ユニークな動きは、応用。耐熱樹脂を成形する。統一芸士が仕上げた本格派。そこに吉岡ロゴテックの特殊印刷加工で、縁起物のたるまや、空襲や大震



「七転び八起きの縁起の良い箸」と「起き上がり個箸」をアピールする吉岡敦之社長。いずれも福井市の福井商工会議所ビルで



「起き上がり個箸」の断面。成形と同時に金属芯を挿入する技術を生かし、おもりを入れた

福井の会社 眼鏡と漆器技術融合

災を乗り越えてきた福井市の象徴「不死鳥」を描いた。

審査会は、日本商工会議所や全国観光土産品連盟が主催し、「郷土色が豊かでデザインが優れている」など七つの基準で審査した。出品数は工芸の部と民芸の部で計百五十一。同会頭賞は最高の経済産業大臣賞に次ぐ賞で、十一日に入賞の報を受けた吉岡社長は「福井の伝統である眼鏡と漆器の技術の融合が評価された」と喜んだ。

無病息災や家内安全など、人生の苦難を乗り越えようという前向きな願いを込めた贈り物や、「起き上がりは、寝たきりにならないに通じる」ことから、お年寄り向けのギフトにも最適という。

来年一月には、自社サイト（「吉岡ロゴテック」）で検索で売り出し、県内の土産物店や全国の百貨店へ販売網を広げていく。価格は二膳一組で一万四千七百円。